

編集後記

●メッセージは倉田薫池田市長（日本下水道協会会長）にお願いしました。倉田氏は、「国と地方の協議の場の法制化」に向けた作業部会に参加した経験から、地方分権改革が画期的に進化したことを体感しつつ、下水道事業のあり方についてもこのような協議の場で話し合うべき、とその重要性を示唆しています。

●本機構の取り組みの一環であり、新技術の普及発展をめざすことを目的とする第48回および第50回の下水道新技術セミナーの概要を掲載しました。誌上でご理解いただければと思います。

●エンジニアリングレポートは①トライボロジーを活用した設備診断技術に関する調査研究②汚泥熱分解燃料化システムに関する研究③合流式下水道改善における水面制御装置の性能評価についての研究報告です。①は状態監視保全の一技術であるトライボロジーの適用性や導入時の留意、分析項目などについての研究内容です。②は間接加熱方式により乾燥させた汚泥を中温炭化処理し、固体燃料を製造する技術やシステムを検証しています。③は合流式下水道改善における水面制御装置の性能評価について詳細に解説しました。

●ワールドワイド下水道は、先進的に海外事業に取

り組んでいる企業にその独自技術や工法などをはじめ、計画・課題解決法などをまとめていただきました。また、今回は本機構職員が帯同した「GCUS・ベトナム調査報告」について、その調査内容を報告しました。

●新研究テーマは、衝撃弾性法による管路診断に関する研究を取り上げるとともに、欧米や韓国で施工実績が増えているNADHを指標とした風量制御システムによる窒素除去法の知見をまとめました。

●トピックスは、日本企業が海外に先駆けて技術開発を行っている膜処理の適用性を図るため、愛知県内で行っている日本版次世代MBR技術展開プロジェクト「A-JUMP」に注目。改築MBR（名古屋市・守山水処理センター）、サテライトMBR（愛知県・見合ポンプ場）について、実証フィールドに赴き、その目的や現在の状況についてまとめました。膜分離活性汚泥法は国内の導入が進めば海外での水ビジネスにもつながるとして、関係者から大きな期待が寄せられています。

●インプット・アウトプットは「ネパール共和国の下水道に関する調査報告」です。首都カトマンズ市内の深刻な水環境の状況が感じられます。

（編集委員一同）

表紙の 写真



次世代の新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、子どもの写真をシリーズとして紹介しています。

写真のお子さんは、今回メッセージをご寄稿いただいた倉田薫・池田市長（日本下水道協会会長）のお孫さん、倉田結衣（ゆい）ちゃん（8才）と実侑（みう）ちゃん（5才）です。この写真は、3月上旬にご自宅近所の猪名川のほとりで撮影したもので、背景にはビックハープと呼ばれる高速道路高架橋が写っています。

結衣ちゃんの特技はなわとびで、現在二重跳びに夢中。実侑ちゃんも姉の結衣ちゃんと一緒になわとびに夢中で、毎日幼稚園にいくのが楽しみだそうです。ふたりの仲の良さが伝わって、見ているだけでこちらも嬉しくなるような一枚ですね。

題 字 財下水道新技術推進機構会長・中村満義
（鹿島建設株式会社代表取締役社長、社日本
土木工業協会会長）の揮毫によるものです。

下水道機稿情報

Vol. 4 No. 11
2010年 4月〈春季号〉

平成22年 4月15日発行 発行者 中 村 満 義
編集者 石 川 忠 男
企画者 江 藤 隆

編集委員：中里 卓治／神原 浩／高瀬 行廣／
田之倉 誠／斉藤 実／御崎 善浩

発行所 財団法人 下水道新技術推進機構

〒162-0811 東京都新宿区水道町3-1 水道町ビル 7階
TEL 03(5228)6511 FAX 03(5228)6512